

**2021 年度（総合型選抜）AO 選抜入学試験 国際関係学部**  
「グローバル・スタディーズ専攻総合評価方式」

---

**【選考講評】**

**1. 実施状況**

志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻	志願者数	一次合格者数	最終合格者数
グローバル・スタディーズ専攻	35	27	19

**2. 試験内容**

(1) 第一次選考

出願時に「志望理由書および小論文」として以下の2つのエッセイの執筆を課し、書類選考を実施しました。

- ① Essay1: Write reason(s) why you want to study International Relations in Global Studies Major at Ritsumeikan University by referring to your personal experiences (About 400 words)
- ② Essay2: Select an issue which international society is currently facing, describe its background and trials/efforts to solve it. Also, explain your own opinion on prospects for the issue (About 600 words excluding title and reference list)

(2) 第二次選考

英語による面接試験を実施しました。

**3. 出題の意図**

(1) 第一次選考

上記で示した2つのエッセイを受験生に課した理由は次の通り。

- ① は、受験生が、グローバル・スタディーズ専攻での学習に意欲を有しているか、同専攻の育成目標やカリキュラムを理解しているかを判断するため。
- ② は、受験生が現代の国際社会の諸問題への関心を有しているかどうか、必要な基礎知識を有しているか、大学で学ぶのに必要な基礎学力、論理的思考力、英語での文章作成能力を有しているかを判断することため。

(2) 第二次選考

英語による面接試験では、受験生が、①英語による専門科目を履修し、国際関係学の高度な知識を習得していくために十分な英語運用能力（特に会話能力）があるか、②自らが執筆したエッセイの内容について、口頭で論理的に説明、議論できる基礎学力があるか、③国際社会の現代的諸問題について、様々な文化的背景を持つ学生と共に学び、複眼的に捉える力を養い、自らを高めたという強い意欲があるか、を確かめることを目的としました。

#### 4. 評価のポイント

##### (1) 第一次選考

エッセイ①については、志望動機が明確かつ具体的であるか、自らの体験を大学での学習に関連付けて論じているかが重要となります。エッセイ②については、現代国際社会の諸問題をどのように理解しているか、多角的に捉えているか、英語で論理的に文章を構成できているかといった点を中心に評価しました。

##### (2) 第二次選考

志望動機が明確か、英語による専門科目の履修に十分な英語運用能力があるか、特に質問を正確に理解し、意見を論理的に述べる力があるか、大学での学びを支える基礎学力があるか、国際社会で将来活躍できるような適応能力が認められるか、といった点を中心に評価しました。

#### 5. 解答状況

##### (1) 第一次選考

英語に関しては一定レベル以上の能力を有した志願者が集まりました。エッセイのなかで、国際関係への関心・知識を有しているか、文献などを参照しながら、自身の考えを、個人的な主張としてではなく、エビデンスをもって多角的かつ客観的に述べることができているかという点で、評価の差がつけました。

##### (2) 第二次選考

多くの受験生に海外での滞在経験（留学を含む）があり、スピーキング力はおおむね高く、国際関係学部のカリキュラムや専門科目について事前に調べ、自身の関心や将来のキャリアパスを、国際関係学部の学びと結びつけて説明できる受験生も存在しました。一方、面接におけるエッセイの内容についての質問では、エッセイに書いたこと以上の知識の広がりには欠けたケースや、回答が自身のエッセイ内容と一貫していないケースもあり、エッセイのテーマについて、より深い知識と思考を示すことができた受験生が高く評価されました。

#### 6. 次年度受験生へのアドバイス

日頃から新聞やテレビ、インターネットで取り上げられているニュースや国際問題に眼を向け、その問題について自分の頭で考える習慣をつけましょう。最近では多くの国のニュースが英語で発信されており、スマートフォンやタブレットで読むことができます。特に興味のある問題については、日本のメディアから発信される情報だけでなく、該当する国のメディアや関係諸国ではどのように伝えられているかを知ることが重要です。そうすることによって問題を多角的に捉える力が備わります。また、卒業後の自分自身がこうありたいという将来像を描いてみましょう。そうすれば、自分が国際関係学部でどんな学びをするべきか、国際関係学部での学びが、自らの人生にとってどのような役割を

果たすかが明確になるでしょう。

以上